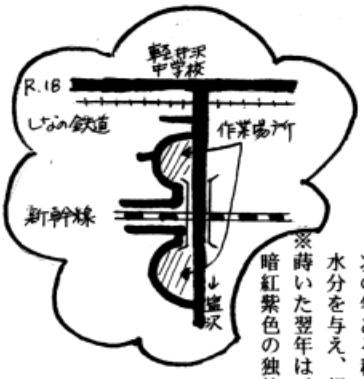
われもこう 第7号

2000年4月4日発行

いよいよ3年目が始まります



皆さんより
お問い合わせの多い ワレモコウ の育て方を
ご紹介いたします。

［ワレモコウ］・日当たりの良い丘や山地の草原に生える多年草です。
花期には高さ一メートルにも達する。
夏、茎の上部に枝をだし、頂に直立した穂状花序をつくり、
暗紅紫色の花をつけます。

（育て方）

☆どんな場所に→ 陽当たり、水はけの良い土地を好む。

☆種を採る時期→ 秋（十月半ば頃）花が終わって種になり、乾いてきた頃に種を採る。

☆蒔く・育てる→ 種が採れたら、蒔きたい場所を耕しておいて（できれば油粕などの肥料を混ぜておく）パラパラと手で揉むように蒔く。
土はかけるなら少量、かけなくても良い。
翌年五月頃まではそのままで、芽が出てきたら水分を与える。
（時々肥料も）
密集して生えてきても、その年はそのままの状態で様子をみる。
次の年ある程度まで育ったら、移植ごてを使って多い分を他へ移す。
水分を与え、根がしっかりとついたら肥料を。
※蒔いた翌年は、花は咲かないかも知れませんが、その次の年には
暗紅紫色の独特な集花を見せてくれる事でしょう！

軽井沢町立植物園園長
佐藤　邦雄先生よりお聞きしました。

われもこうも サクラソウも

「われもこうの会」前代表 今城治子

九九年五月上旬、ちょっと気になっていたサクラソウの自生地の様子を見に行きました。雑木林を抜けると、なるほど木々の根元にサクラソウが固まって咲いていました。楚々としたたたずまいの自生地でした。その四日後、昔この場所を見たことがあるという方と、二十年前に比べてサクラソウがどの程度減ってしまったか、調べに行きました。

びっくりしました。ほとんどの個所が、土ごとえぐり取られてしまい、醜い黒々とした土の窪みがあるだけなのです。一株か二株残っているサクラソウが、泣いているようでした。そんな窪みが十ヵ所以上ありました。点々と続いていました。こんなところまで、とあきれるくらい大規模な盗掘だったのです。

かつて軽井沢の春は、一言でいえば、サクラソウのピンク一色だった、と聞きました。写真が残っていないほどありふれた自然でした。

「もうあそこは、全滅した。あきらめて、他の場所に残っているサクラソウを大切にしていけば良いんだ。」忘れようと何度も思いました。十年早く何か手を打っていれば、こんなことにならなかったのでは、と悔やまれました。そこが自生地だと知っていましたが、そっとしておけば良いと、見にも行きませんでした。そっとしておくだけでは、自然を守れない時代になってしまったのです。何でも商品になりうる時代には、その力に対抗するだけの人々の良識が必要なのです。

サクラソウのことも、南軽井沢の湿原の貴重さも知りませんでした。ただ、軽井沢らしい景観を取り戻したいという気持ちで「われもこうの会」をやっていました。一所懸命、野草を植えていても、野山では、山野草がごっそり盗られて、（おそらく）売られている。これでは、自然を取り戻すことは、出来ません。ウチの近所の「ありふれた自然」、ウチのそばからは消えていったけれど、どこかで残っているに違いない。みんながそう思っています。ところが、実際にはそれは、日本中から消えていってしまっているのです。

人間は「これまで地球上に現れた生物で、最も破壊を好む危険な生物です。」でも、「この生物はまた想像力豊かで建設的で、良心を持っています。」（WWF創始者P.スコットの言葉）

サクラソウのために、見ず知らずの私達の願いを快く聞いて現地調査をしてくださることになった、東京大学の保全生態学の鷲谷いづみ先生。先生の熱意に助けられ、軽井沢の自然とサクラソウ自生地を守り復元しようとする人たちが集り、今年の二月に「サクラソウ会議」が創られました。

「われもこうの会」も二月の総会で、「サクラソウ会議」に参加することを決めました。二一世紀の子供たちに、ピンク色に染まったサクラソウ自生地を見せたいものです。ぜひ、応援してください。

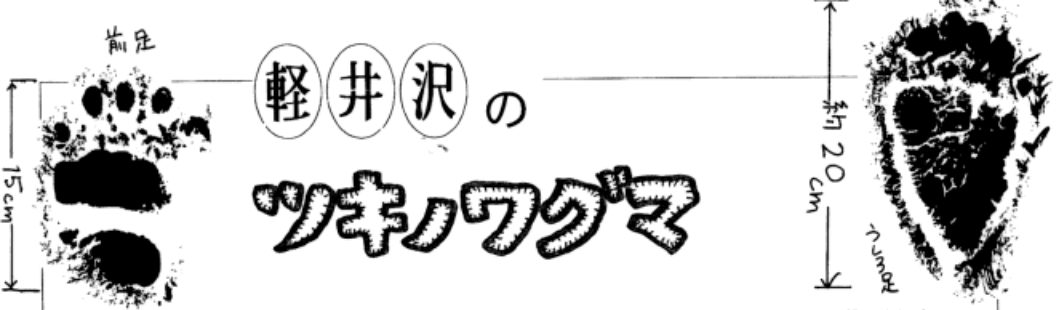
<講演会のご案内>

サクラソウの咲きつづける町に！

4月16日(日)
午後1時30分～
軽井沢中央公民館

講師　鷲谷いづみ先生
演題　サクラソウと生物多様性の保全
（入場無料）
主催　「サクラソウ会議」
後援　軽井沢町教育委員会ほか

軽井沢のツキノワグマ

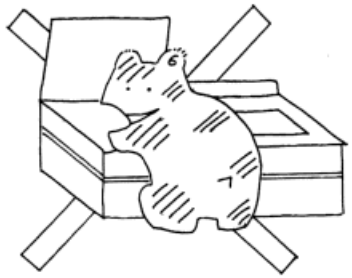


↑体重約150kgのクマの足型です。

「良い林だな。クマがいそうだな」、3年前に軽井沢に遊びに来たとき、そう思いながら小瀬のあたりを散歩したのをおぼえています。その当時は、のちに軽井沢に住むこと、また、すでに別荘地の界隈にこれほどクマが出ていようとは想像もしませんでした。

昨年の調査では、月に一度は至近距離でクマに遭遇しました。吠えられたこともありました。クマまでの距離が遠いと、「ヒャッ、ヒャッ」、50mもない時は「ブフォフォ」、3～4mの時は「ウー」と低い声で唸られました。クマが住んでいることは、豊かな自然（広葉樹林）が残っている証拠です。けれども、フタを開けてみると、これほど会うのも、人とクマの住処が重なっているだけの理由では片づけられないことがわかりました。ゴミに誘引されているふしがあるのです。軽井沢では、夏になると別荘地内のゴミ捨て場の残飯目当てにクマが現われます。昨年は5月頃から9月まで荒らされていました。このままでは、いつかゴミ捨て場や散歩道でクマに遭遇し、人身事故になりかねません。すでに紙一重の状況です。その背景として、かつて餌付けされていたことの影響がおおいに考えられます。軽井沢では、ゴミの問題、餌付けの問題など観光地が抱える野生動物の問題がてんこ盛りなのです。

クマは猛獣です。けれども、接し方を誤らなければ、共存可能な動物です。ゴミの後始末、頑丈なゴミ箱の設置など、必要なことはなにか、一人一人が考え、協力しあえた時、解決へとつながるのです。食物などの誘引するものを無防備に放置さえしなければ、山や別荘地の周りでゴソゴソと、時には庭先でクリやミズナラの実をあさりながら人知れず静かに暮らしている「山親父」、そんな動物なのです。



軽井沢ワイルドフォレスト
ツキノワグマ研究員
小山　克

今年も作業がはじまります。いざ！

2000年度 作業日のお知らせ

4月	23(日)
5月	10(水)・21(日)
6月	7(水)・18(日)
7月	5(水)・16(日)
8月	2(水)・20(日)
9月	6(水)・17(日)
10月	4(水)・15(日)
11月	19(日)かたづけ日

◎時間は1:30pm～3:30p.m
多くの方の参加をお願いします。

会費について

年会費 2000円

十二屋商店 長谷川までお届け下さい。18才未満65才以上の方は500円です。
その他、寄付は遠慮いたしません。

会員は随時受付けます！

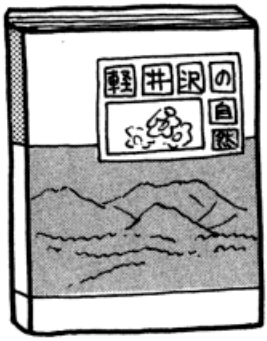
★労働力だけ参加して下さる方、両方参加して下さる方、あなたの気持ちでOK.

広告

日本の絶滅植物の絵はがきを1部600円でお分けします。お近くの会員まで、ご連絡下さい。(サクラソウ会議の資金になります)

(12枚入1組)

おすすめの本



軽井沢の自然
中村浩志編著
信濃毎日新聞社
¥2800

写真が多く、たいへんわかりやすく軽井沢の自然が紹介してあります。

・自然と景観　・野鳥の生活
・植物のいとなみ　・動物の生活

発行/「われもこうの会」　事務局/ TEL.0267-46-2393 FAX.0267-46-2370

●再生紙を使用しています。